

# カトリックさいたま教区サポートセンター ボランティア活動報告⑧

第27チーム・2011年9月29日(木)～10月4日(火)

## ■湯本サポートステーション（福島県いわき市） （信徒女性2名、シスター2名、計4名）

木曜日朝、教区事務所に集合。前グループから話を聞く。スタッフの説明・自己紹介などあり。湯本ステーションでのボランティアの心得を聞く。ステーションでの夕食の時間中、突然震度5強の地震！！テーブルのお茶、お味噌汁などこぼれる。久しぶりの大型地震、なんと震源地はいわき市！！

金曜日の午前、トアン助祭作成の東日本大震災のビデオを観て話し合いをした。昼食の後、いわき教会へ出発。傾聴グループ「みみ」との連絡会。4つのグループに分かれて10月9日(日)に行われる「秋の小さなお祭り」のちらしを配りつつ、傾聴をした。午後4時頃いわき教会に戻り、訪問の報告をする。皆で用意した夕食を食べた後、午後の訪問についてミーティングを行った。仮設住宅は日常生活のしにくい場だと感じた。買い物をするところがない、車がないとどこにも行けない、高齢者は人に頼まないと何もするも難しい。道の舗装もできていない。病院、診療所がない etc.。傾聴は難しい。気が付くと、こちらが多く話してしまっている。気を抜くとそうになってしまう。半年過ぎ、月日(時間)が癒してくれているのだなということを実感することもあった。新しく出来る「いわきサポートステーションもみの木」のサロンは、仮設の人々を生かせる場になればいいな、と思った。

土曜日、ステーション全館を掃除した。それから久ノ浜方面の視察。昨日観たビデオの中に出てきた場面がそのまま残っているところを見て、再度災害の大きさ、恐ろしさを感じた。海の様子などを見て、亡くなった方々のために祈る。昼食後、再びいわき教会の方と一緒に傾聴訪問に向かう。主にちらしのポスティングをして、いわき教会にて活動を記録。夕食時には食事をしながら、チームで体験を分かち合った。ある地区の仮設住宅は未入居の家屋が多かった。各棟間の道路舗装が進められていて、老人、身体の不自由な方々は喜んでいて、しかし、

駐車場が住居と少し離れているので砂利道との段差で捻挫した方もいたようだ。この地区は異なる地域からの入居者が多く、自治会を作るのも困難だと聞く。傾聴途中で民生委員と知り合いになったグループがあり、今後の連携が期待される。現状を踏まえて、「もみの木」のログハウスが上手く機能し、皆の交流の場になれるよう期待される。この日も地震、余震が頻繁に来る。

日曜日、いわき教会で氏家神父とチェスワス神父の共同司式の主日ミサがあった。簡単に食事を済ませた後、ちらし配布の準備をし、521枚を用意。ただ、日曜日ということで訪問は控えた。平日に会えない人に休日であれば会えるであろうと考え訪問したくなるが、仮設の入居者の中には、せつかくの日曜日なので、家族でゆっくり外出したり、くつろぎたいという思いがあるかもしれないと考えた。明日の食事用の買物当番と食事当番に分かれて作業する。今日は日曜日なので、少し早めに夕食。ゆっくり話し、色々分かち合った。

月曜日、朝食の後、小名浜港を視察。漁港では漁師の方々から少し話を聞くことができた。港ではサンプルとしてとれた魚の検査を定期的に行っているが、セシウムが検出され出荷不可能。たら、ひらめ、白魚など。「仕方がないので、がれきの片づけをしている」と言っていた。そして、津波が来た時の様子などを話しだすと悔しそうに泣きだした。一言だけ「同じ気持ちでいます」と伝え、深く頭を下げるしかできなかった。漁港に貨物船がついていたが、ガレキをどこかに運んでいる様子だった。昼食後、2組に分かれて仮設住宅へお祭りの案内のチラシを配りに行った。訪れた地区は約200戸と大きく、チラシ配りの際たくさんの人に出会うことができた。仮設に来たばかりの頃、家族の一人が救急車で運ばれるほどの病気になり、その後また家族の別の者が入院した事などの苦労話を聞く。また別の方は、「稲の畑を五反持っていた。その他自宅周辺には畑があった。自分は百姓なので、それ以外のことはできないし興味もない。帰宅して稲の畑を見ても草ぼうぼうで刈ってもまた生えてくる。同じことなので、帰っても仕方がない」などの話を聞いた。

訪問が終わってから、活動場所として臨時に借りることになったUR都市機構案内所の場所を見せていただく。ここは10月の中頃から「もみの木」のログハウスができて上がる予定の12月末まで使われる事になっているようだ。夕食後チーム全員で分かち合いをする。ボランティア最後の日でもあり、本当に有意義な話がされたと思う。今回、このチームのステーションでの活動のミッションは、新しい「いわきサポートステーションもみの木」の紹介をすること、そのためにチラシをできるだけ多く配布することであったこと。仮設訪問一本の活動からサロンとしての活動へ移る過渡期の活動として捉えるという認識を全員が持ち、「傾聴ボランティアとして十分できなかったのではないか」ということを気にしなくてもいいのでは…と分かち合った。

**第28チーム・2011年10月6日(木)～10月11日(火)**

**■湯本サポートステーション（福島県いわき市）**  
(信徒男性2名、シスター1名、計3名)

木曜日午後湯本ステーションに到着後、常駐スタッフの案内でUR機構案内所、中央台仮設住宅、NPO法人いわき自立生活センター、ログハウス建設予定地、10月9日(日)の炊き出し予定地山口公園の見学をする。いわき教会の方が来られ、ミーティングをした。

金曜日、被災地視察。江名、豊間、小名浜を見る。午後1時よりいわき教会にて、傾聴ボランティア「みみ」とのミーティング。金曜日から日曜日の行動の打ち合わせ。本来は傾聴にでかける予定であったが、日曜日の炊き出しについて、十分に情報が伝わっていないとの意見で、ちらしの取り付けを行い、その後分かち合いをした。仙台教区報に「みみ」の方がさいたま教区の活動について書かれていた記事を読んだ。

土曜日、仮設住宅で翌日の炊き出しのちらしを配布。午後2時半より小名浜教会にて、炊き出しに併せて提供する物品の点検と新しく出来る「いわきサポートステーションもみの木」用の食器を調達。午後6時半、いわき教会にてミサ。

日曜日、炊き出しとバザーの準備。午前11時半、山口公園にて「秋の小さなお祭り」開始。この日は暖かく、風もなく、炊き出しの準備も順調に運んだ。東松山教会

の方々の歌とペルーの踊りと楽しみ、川口教会のベトナム人の方々の料理を美味しく食した。氏家神父も仮設から来られた方々と楽しそうに交流していた。湯本ステーションからは麦茶とコーヒーをサービスした。衣類、雑貨、食器類、皆さん喜んで持って帰られた。東松山のペルーの方々が現地の子どもたちとボールで遊んでいた。とても喜ばれていた。午後2時、現地で片づけ終了後、いわき教会、小名浜教会、湯本教会で片づけを行った。

月曜日、昨日持ち帰ったゴミの分別、段ボールの整理や片づけを行った。



10月9日「秋の小さなお祭り」  
バザーの様子



炊き出しの様子



子どもたちによるペルーの踊り「マリネーラ」